

平成 28 年度第 1 回上下水道事業運営審議会議事録（要旨）

I 日 時 平成 28 年 8 月 16 日（火）午前 10 時から（約 80 分程度）

II 場 所 上下水道局本館 6 階 中会議室

III 出席委員 8 名（50 音順）

位寄和久委員、岩下盛起委員、川越保徳委員、川野由紀子委員（副会長）、
篠原亮太委員（会長・議長）、杉内昭夫委員、中島充恵委員、中村靖生委員

IV 事務局（市側）出席者

永目管理者、米村部長、田川部長、中島部長、吉井総務課長、岩本計画調整課長、坂田
水相談課長、松崎経営企画課長 他事務局

V 傍聴者 0 名 ※報道機関 4 社（熊日新聞、西日本新聞、RKK、KAB）

VI 次 第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 委員紹介

4 事務局紹介及び上下水道事業管理者挨拶

5 会長及び副会長選任

6 説明及び報告事項

- ・上下水道事業の概要について
- ・平成 28 年熊本地震に伴う上下水道施設の被害状況等について

7 議 事

- ・熊本市上下水道事業震災復旧復興計画構成案について
- ・下水道事業に係る社会資本総合整備計画に伴う事後評価について

8 その他

- ・上下水道事業経営基本計画の中間見直しについて
- ・平成 28 年度上下水道事業運営審議会のスケジュールについて

9 閉 会

VII 議事録

説明及び報告事項	
・上下水道事業の概要について事務局から説明	
（委 員）	今回の地震で多くの家庭で水道管が破れた。水道業者がお客様の対応に苦慮し、修理が全然進まなかった。また、指定業者に連絡しても繋がらずどうしようもなかった。今後、こういう災害があるか分からないが、対応について業者に指導をして欲しい。
（事務局）	確かに二次側漏水については、工事店が対応出来なかった。従って、今後あつてはならないが、600 近くの業者（給水装置工事）を集めて指導する機会を設け、協力を依頼したい。

(委 員)	その意見は市民全体の意見でもある。是非ともきめ細やかな指導をお願いしたい。
・熊本地震に伴う上下水道施設の被害状況等について事務局から報告	
(委 員)	被害の報告を聞いて、水が出なかった理由が良く分かった。水の国熊本でこのような状況になるとは思わなかった。
(委 員)	水道管の一次側とはどういう意味か。
(事務局)	水道メータの上流側であるという意味（水道メータを通過する前）。一次側は上下水道局で修理を行っている。
(委 員)	市民の方はどこまでが自分の責任でやるのか分からず、かなり不満等も出たように思う。日頃から公道のどの部分が市の管理、敷地内は個人の管理というのを周知しておくことが必要。
(委 員)	下水道管破損等による漏水等で付近に汚染が出たということはなかったのか。
(事務局)	下水道の管渠については、応急復旧したのが3ヶ所あった。その内の1つが圧送管だったので、そこだけは外に出たという状況であったが、あとの2ヶ所は管内の破損で、外に出るまでではなく局で処理出来る範囲であった。
(委 員)	圧送管の方もすぐ復旧したのか。
(事務局)	圧送した分もすぐに復旧した。
(委 員)	地下水が豊富なので、破損していない所に地下水が侵入するいわゆる不明水が多く見受けられたのではないかと思うがいかがか。
(事務局)	0次調査、1次調査、2次調査を行い、管渠の状況を調べた。その結果、2次調査の段階で地下水位が上がっているところ、特に沼山津地区は管渠内に地下水が入っているのが見受けられた。 他都市の応援の方から、熊本の下水道にはきれいな水が流れていると言われた。 113.9kmを調査して、実際は29.6kmが被災しており、それを災害復旧で行うという形を考えている。
(委 員)	応急修理は、大変だったと思うが、今回はどういう順番で修理を行ったのか。
(事務局)	基本的に最初の3日間は取水部分、それから基幹管路（導水管・送水管で350φ以上の重要管）、それから配水管、その後給水管の一次側という順番で進めた。起点から終点という流れ。今回、3597ヶ所漏水しているが、これも水を流してみないと漏水しているか分からない状況なので、通水しながら調査を行った。
(委 員)	自分の住んでいる所がどこの配水池から水が送られてくるのか分からない。全体的な図面等はないのか。

(事務局)	配水区区割系統図というのはある。ホームページ上で公開している。
(委員)	水道間のネットワークも結構ある。
(事務局)	お互いに水を融通する水融通管により、ネットワークを構築している。今後も進めていく予定だが、今回はネットワークの心臓部である健軍配水池が被害を受けたため、融通が出来なかった。4/17には通水状態にすることが出来た。
(委員)	水は2、3日後には出るようになったが、濁りが取れなかった。普段は地下水なので浄化という部分の管理があまりいらなかったと思う。ただ、震災が発生した状況においては、逆に脆弱性があると思う。今後、その辺に関してはどういう方向性で対応されるのか。
(事務局)	<p>濁度に関して水質基準では2度、本市は0.01の世界で管理している。濁度については、早い所で数時間、遅い所は2日ぐらいで自己排水するだけで回復した。井戸自体に本格的な被害が出ていないことが良かった。浄水については、他には紫外線処理やる過を行っている所もある。その中で原水が意外ときれいだということが分かったので、今後も二次的な処理は、あまり効果もないのではないかと思う。現況の井戸を守る方法で良いのではないかと思う。</p> <p>今回は一旦、空になったので内側に付着した汚れ等が最初出て濁り水を排水したが、全部取るには時間が掛かった。</p> <p>水は管渠の生き物であり、配水池から水が出る時は良くても道中、家庭付近で少し変わる場合がある。配管が違ったり、経年管が家庭用で入っている場合は、鉄サビ等でなかなか取れないこともある。</p>
(委員)	紫外線処理を行っている所はどこか。
(事務局)	浅井戸がある井戸で八景水谷、一本木、亀井の3ヶ所で行っている。
議 事	
・上下水道事業震災復旧復興計画構成案について	
(委員)	水が出始めた時間に差が生じた主な原因は。
(事務局)	<p>市内に13の配水区があるが、原因の一つとして、管路の長さの違いにより時間のタイムラグが生じたと思われる。</p> <p>また、高遊原配水区(33,000トン)まで送る800φの鋼管が4ヶ所漏水し、前震で1回漏水して、修理が終わって本震でまた漏水した。その修理が終わるのが4/19までかかった。</p> <p>その後、沼山津から戸島、戸島から高遊原に送って、高遊原から戸島小山方面を配水しながら一番末端が武蔵ヶ丘方面になり、その時間が非常に掛かったということが分かっている。</p> <p>機場毎で取水がいつ復活して、その後、配水まで半日掛かったのか、1日掛かったのか、そういうのを全部洗い出ししている。施設として弱点がその機場でどこにあるのかというのを再チェックしているところである。</p>

(委 員)	<p>市内13の配水場がどこをカバーしているのか市民は知らない。だから、水が出るのが遅いと市民から不満が出る。</p> <p>原因の一つとして広報の仕方に問題があると思う。基本的に強靱な対応力というのは災害時対応には種類があって、行政側の対応もあれば、市民の対応もある。市民が対応するにはある程度、全市を理解していなくても自分のエリアだけでも知っておく必要がある。マップを作って自治会に配布しておくなど色々やり方はある。これは大変だが、今やっておくことが大事である。</p> <p>広報の重要性と仕方については、災害時の対応力の強化に入れておいて欲しい。ソフトがあったハードを生かすという考え方も大事である。</p>
(委 員)	<p>今回、濁った水を飲んで良いのか分からないし、修理をしたいがどこにお願いしたらいいか分からなかった。そういった情報を次々と発信していただくと市民は安心すると思う。災害時対応力に広報も入ってくると良いと思う。</p> <p>広報手段については、新聞やテレビをもっと活用して欲しい。</p>
(委 員)	<p>第3章で「まちづくり」という言葉も入っているので、もう少し地域ごとの特性も加えられると良いと思う。</p>
(委 員)	<p>第4章により一層の民間活力の導入とあるが、どういうことか。</p>
(事務局)	<p>現在、国の方でも官民連携という話が出ていて、包括的民間委託も検討していくということである。</p>
(委 員)	<p>今も委託をしていると思うが、より一層ということはさらに民間に委ね、民営化していくということか。</p>
(事務局)	<p>民営化までは考えていない。</p>
(委 員)	<p>民間委託は良い面、悪い面もある。行き過ぎると問題も出てくるので慎重にお願いしたい。</p>
その他	
(委 員)	<p>下水道のことはあまり熟知していないので、1度、現場見学等を企画していただくとありがたい。</p>
(事務局)	<p>11月に予定している第2回会議の前に、皆様に案内して説明を行いたい。</p>
(委 員)	<p>今回はやはり情報不足だったと感じる。情報提供については、市民の方が分かりやすい告知の仕方も検討していただきたい。</p>